

# 苫小牧 医療講演会・交流会報告

外崎 裕子

- ◆日時：2015年9月27日（日）13：00～15：15
- ◆場所：医療法人社団 養生館 青葉病院
- ◆講師：鈴木昭治先生（副院長）

患者、家族、遺族、医療福祉専門職など、20名の参加がありました。

最初に、鈴木昭治先生から、「神経内科診療の経緯とALS患者さんとの出会い」と題し、講演をいただきました。

平成26年度の特典疾患医療受給者証交付数によると、苫小牧には18名ALS患者さんがいます。そして青葉病院では、入院7名、外来7名、計14名のALS患者さんを診ておられます（平成27年8月末現在）。苫小牧のみならず、近隣の市町村からの患者さんもいます。ALS患者にとって、青葉病院がとても重要な役割を担っていることが、この数からも伺えます。

先生からは、患者さんが受診に来られた時の状態、治療でのやりとり、患者さんや先生の思いなど、心に迫るお話をいただきました。

「人工呼吸器をつけるか、つけないか」。ALS当事者にとっては、大きな命題です。気兼ねして、装着したいけれど言い出せない場合もあるでしょう。一度装着すると外すことができないという問題もあります。難しい問題に、鈴木先生は日々真摯に向き合っておられます。身近にこのような先生がおられることに、心強さを感じました。

交流会では、鈴木先生にもご参加いただき、様々な質問に答えていただきました。「食後に身体のだるさを訴える／休息時間が増えている。原因は？」、「痰吸引のできるヘルパーが見つからず大変だ」、「手が不自由でパソコンができなくなった」など、様々な思いや質問がかわさ

れ、それぞれに対し、アドバイスや体験談などが語られました。

鈴木先生から、この会が1回で終わりではなく、次に続くものとして考えているという心強いお言葉をいただきました。苫小牧、その近隣でも、患者同士が支えあい、医療福祉専門職と手をつなぎ、より良い療養環境につなげていくことができたらと、私たちも期待しています。

今回の医療講演会・交流会は、青葉病院の方々の全面的なご協力のもと、開催ができました。ありがとうございました。

